

パイロ カステホン

パカカカカカカ

どじ集

2004年8月12日編集(担当村松)

シルバーイーグルス&ジュニア

スペイン(カステホン) パラグライダー遠征 どじ集

2004年7月24日 作製

7月26日 追記

8月 4日 追記

8月12日 最終

その昔、“アヌシーどじ集”というのがあった。今回もそれをまねて

”スペイン(カステホン) どじ集” としてみよう。

”パラグライダー遠征”と参加者は呼んでいるようだが実態は

”年寄りが集まってスペイン料理を食べビールを飲みに行こう” と言うのが正しい。

それを証明するのが 参加メンバー、と平均年齢。

まとめ役の 永井インストラクター、ガイド役の エミリー

参加メンバー 飯盛、東野、村松、森、原島、新木、滑川、永井 計8名

平均年齢 51.5歳

日程 7月3日21:55成田発=>パリ=>バルセロナ=>カステホン(ピレネー山脈)

7月11日 同じコースを逆に成田着06:25

さてとりあえず筆者に報告されている、または筆者が聞いている範囲の ”どじ” を報告しよう。

★1: **酔っ払い電話魔**

7月2日(遠征はまだ始まっていないが、シルバーイーグルスの場合いつも前夜祭からスタートする)新木が静岡組の車に乗せてもらえず(重量の問題か)村松宅に宿泊。武田も激励に合流し3人でささやかに(始めのうち)前途を祝って祝杯を重ねる。ビールのうちはよかったが、ウイスキー、焼酎と進み電話魔の新木が参加メンバーに電話攻撃を開始。酔っ払ったわけのわからない電話で寝入りばなを襲われたナガチャン以降寝られなくなったとのこと。同様の電話攻撃を受けた森は”あの二人はもう終わったな!”と判断。あの二人の中に村松も入っているらしいが本人は一切記憶に無く無実と思っている。3日の出発が午前便だったら、”本当に終わっていた。”かも、

★2: **遅刻**

成田集合18:30と東野より厳命有り。全員遅れないよう各自のコースを検討した。19時頃着けば十分と思っていた原島はあわてて予約便を変更している。18時ほぼ全員が集合した。が18:30定刻となってもまだ1名来ない。東野だ。 ”ごめんごめん!”と顔を出した時は19時をまわっている。この集合時間18:30は、東野が自宅を一番都合よく出発すると成田に到着する時間とのこと。それを30分も過ぎるとは”許せない!” 出発時間待ちの間のビール、つまみを負担することになった。(¥支払いによる最後の罰金 以降はユーロ払いとなるだろう)

★3: **重量オーバー**

順次搭乗手続き開始、グライダーを預ける。森のグライダーの時、係員が目をもく。大きな体積ではないが、ずっしりと重い。27kgだ！（制限重量20kg）

”少し減らしてください”の指示でアンパックし重そうなもの数点引き抜き再度レントゲンチェックにまわりやっと受付してもらった。次の村松は25kg、首を傾けていた係員がしょうがないと言った顔で”OK” 「皆さん、エールフランス は 25kg 限度ですよ」

★4: **交通違反 その1**

バルセロナにてレンタカー2台入手。トラックみたいな車幅の1BOXだ。1号車の運転は永井イントラ、そしてエミリー、原島、滑川、永井 の5人。2号車は大型車に自信のある新木が運転、東野、飯盛、村松、森 の5人。最初緊張気味の新木も1時間を過ぎると運転に自信がみなぎってきている。俺について来いとばかり1号車をかわして先頭を走り始める。が、ナビゲーターの指示不足も重なり曲がるべきところを直進してしまった。こんなことは大したことじゃないとばかり”適当な箇所でUターンする”と後続する1号車に無線連絡し、目に付いた幹線道路左側のわき道に車を進める。が、これは一方通行の出口だ。幸い対向する車も無く無事本線に戻り”ほっとして”走り始めるが、車内は騒然。”違う！違う！右！、右！”ほっとしている新木運転手、何を騒ぐかとばかり”悠々”と左側車線を走っている。前方から車が同じ車線に対向してくる。はじめは”む！！！”として対向車をにらんでいた新木、”は！！”と気がついて右側車線に入る。そうそう、スペインは右側通行です。人間”ホットした時”地がでるんです。

★5: **得意のフロント**

4日18時スペインにおける最初のフライトに出発。標高900mのカステホンから2350mのTOまで約1時間強。初日は強烈なサーマルのおさまった夕方ゆったりと飛ばうと思ったが、TOに到着した19時半には風がほとんど無くなっていた。クロスなんて夢の夢。フロントで思いっきり走らねば何も始まらない。滑川、森はやっとの思いでTOしていったが、飯盛は飛び乗り失敗、ナガチャンは最後まで走りきれず、新木はスピード不足でグライダーが上がらず、村松は最後に力尽きヘッドスライディング、原島も確か失敗したはず。冷やかに”俺だけは失敗しないよ！”とばかり見ていた東野、おもむろにグライダーを”たたみ”始めている。一度くらい挑戦しろよ！！

★6: **部屋割りじゃんけんポン、大きすぎるベット**

部屋割り条件は(1) 軒の大きいやつは1人部屋、(2) タバコを吸うやつは同じ部屋、(3) 女性は同じ部屋 でおおむね解決。

このホテルに大きなベットとバスタブのついた最高の部屋がある。この部屋を賭けて東野、森がじゃんけん勝負を行った。森の勝ち。しかし大きな部屋のため集会場にはなるわ、他の部屋からは風呂に入りに来るわ、で落ち着けなかったらしい。その上XSの体重しかない森が100kg級二人が十分に寝られる大型ベッドの片隅にちょこんと寝ているのをみて、皆で笑ってしまった。

★7: **粘り勝ち**

心置きなく飛べる最後の日、7月8日 全員が何かやらかしそうな怪しい雰囲気だ。
”もういいでしょう！ 滑ちゃんいきましょう”と黄門様のような指示でTOした滑川だが、、、。
行けども、行けども当たりが無い。とうとうLD前の山陰に隠れてしまった。”かわいそうだけど
これをありがたいダミーとして活用すれば沈没した滑川も浮かばれるでしょう”と残りはもう少しサー
マルの出るのを待つことにした。”あれ！滑ちゃんじゃない？”とナガチャン。山陰に滑川の機体が
ちらちら見え隠れしている。”お！！粘ってるジャン！”と指示を出した永井イントラがほっとしている。
その後がすこかった滑川。とうとう粘りに粘り、TOまで昇ってきてしまった。
トプランして一休み後再度TOして本日の最高フライトを満喫したが、、、、
これがその後、最悪の結果を招くことになるとは ”神のみぞ知る！”

★8: **半端なサーマルではない**

滑川の粘りに好条件到来を感じた森、すばやくTO開始。直に大きなサーマルを捕まえ一気にトッ
プアウト(Galiner山 2732m)。その後も上昇を続け本日のXC方向 南南東に機首を向
け視界から消えていく。
本人後日談”時差ぼけは解消されていたが、あの時は疲れが残り(酒の飲みすぎだろう?)体調
は今ひとつだった。あのサーマルでいっぺんに目が覚めたよ。一挙に雲底まで上がりとってもハッピー
だった”と。 TOで見ていた全員 ”こわいー” でTOを渋ったことも知らないで。
この人(森)どんな神経してるのかな？ 恐怖感あるのかな？

★9: **見知らぬ土地へ**

森のすさまじいサーマルをみて、引き続きTOを狙っていた全員が尻込みして、一呼吸置いた。
村松は自分の前にグライダーを広げた新木に”お先にどうぞ！”とやるが、腹を見透かされ ”よける
からお先にどうぞ！” とかわされる。どうしようもなく、しびしび村松はTO。
早速強烈なやつにわしづかみにされTOP近くまで引っ張りあげられる。XCに出た森を追いかけよう
と隣の山(Urmella)のガラ場に行くとバサバサと荒れたサーマルに突き上げられる。あまりの怖さ
に途中離脱して森の後、南南東に機首を向ける。前方を探すが森の機影は見えず。ずいぶん
遠くまで行ってしまったのかと少しづつアクセルを踏み込む。山の間平地(標高1000mは越して
いる)に幹線道路が走り、その先に集落が見える。山脈に沿っていったほうが高度は稼げると思い
つつも、落ちたとき、いや緊急ランディングしたときのことを考えると幹線道路から外れたくないな、と
思いながら右方向からの向かい風を受け少しづつ前進する。が、高度は下がる一方だ。このころに
なると森はXCに見切りをつけサッサと戻ってしまっていることに気づいているが、戻るにはちょっと高度
が不足。もう少し行って見ようと前進する。が、高度は下がるのみ。”村松です。多分カステホン
LDに戻れないと思います。後で助けに来てください”と一報する。LDやTOには無線が届かない
が、高度3000mでフライトしていた新木が中継できた。これで安心、とアクセルを踏んで、行ける
ところまで行こうと集落を目指す。と、手前の丘の前、でグランドサーマルがある。慎重にあげきり

集落は十分越せる高度を確保できたことに気づきほっとする。このサーマルを境に風向きがフォロー気味となりスピードが上がる。3箇所ばかりLD候補の目安をつけながら幹線道路に沿って南下すると前方の平地全体が急勾配で下がっている。幹線道路も急な下り坂となり先が見えない。フォローで、高度もあまり無く、先の地形も見えず、このまま進みローター気味の中で緊急LDするのは、知らない土地ではあまり楽しくないだろう、と思い、下り坂手前幹線道路脇の牧草地(牧草はすでに刈り取り済み)をLDと決めた。LD上空でUターンしてみても驚いた、風が強くなりまるで進まない。右に左に振り回されながら垂直降下し無事LD。“村松ランディングしました”との連絡は相当息切れしていたらしい。新木、森の笑いのネタにされてしまっていたようだ。さて”私はどこでしょう？”強風の中やっとグライダーをたたみ幹線道路に出て道路標識を読むと「coll de Espina 1407m」とある。エミリーに連絡してもらおうが”そんな町わからない”とつれない返事が返る。“森さんは町(集落)の場所がわかると思う。その町を突っ切っている幹線道路の先のほうだ。もう少し行くともっと大きな町がある”の連絡でやっと回収隊が動く気になったようだ。道路わきの標識の下にグライダーを置き携帯した水を飲みながら地図を広げる。持参した地図を少しはみ出したあたりにいるみたいだ。ハーレーダビッドソンに乗ったライダーが3人目の前に止まる。“何してるんだ？””パラグライダーだ。ここはどこか教えてくれ””144号線 Laspaules を過ぎ Espina の手前1kmの ところだ”と地図を広げて教えてくれた。1台の車が止まる。“カステホンから飛んできたのか？””そうだ””カステホンまで乗っていくか？””友達が回収に向かっているから大丈夫だ”と感謝しながら断る。切れ切れの回収隊無線が入り始める、やはり日本語はいいな。そして急に明瞭になる。と思ったとたん、曲がり角から車が姿を現す。助かった！！あっという間に来てしまったと思っていたが、カステホンへの帰路結構道のりがあるので驚いた。そしてだんだん回収ご苦労様と感謝の気持ちが大きくなっていく。“こんな近いのに、なかなか来てくれない”と思っていた自分を反省！。後で測定したらカステホンから直線13kmであった。当日の夜食にて 回収費 60ユーロ(酒代に消える)巻き上げられる。

★10: **交通違反 その2**

あれは、村松さんを回収するため、場所のわかっている森さんを先にひろいこく時の話しです。ランディングに行く途中、警察官が白パイを道路つぱたに止めて休んでいました。何の気なしに通りすぎたのですが、その途端、鋭いホイッスルの音！そこで私はシートベルトをしていないことに気がつきました。あわててベルト締めて(遅いけれど)びくびくしながら待っていると、そういうときに限ってやたらハンサム(ヨン様なんか目じゃないわよ！)が窓から顔を出しました。あーーーー連行かしら？されてもいいかなー！なんておもっていたら(ここで飯盛さんの顔は引きつってました、ちょっと。)このハンサムさん、いきなり三十路もはるか過ぎた私に向かって”お嬢さん！”と呼びかけるのです。その時点で”勝った！”と思いました。若いおんなと思ってるなら、“注意”だけだな、と。彼が言うには、“僕が見たときベルトしてなかったよ。今回はいいけれど、次回から、罰金だからね。”

そして私が見せた国際免許を一瞥すると、“こんなの見たことないや。”ですって。

それで放免してくれたのですが、考えてみれば飯盛さんを旦那だといって、妊娠している、って言えばよかったです。“が、ははは。”

ああ、でも本当にハンサムだったの！飯盛さんがいなければ、、、、いや、飯盛さんに聞いてみればわかります。

えみりー

飯盛 曰く

確かにエメリーの言うとおりの若いハンサムな警官でした。“セニョリータ”の一言で熟女をあんなにうきうきさせるなんて・・・今度どこかで試してみよう。あのときひげのおじさんが変なところに降りないで、そして眼鏡のおじさんがアウトサイドしなければ、エメリーと私は、とある静かなバーでシェリーなどでムードをだしていたはずだった（ここだけの話）。

このおとしまえ誰がつけてくれるのだろうか？。

榊枝「カステホンに行けなかったひねくれ者」 曰く

飯盛さんもお承知のごとく女性は誉められて？、怒る人はいません。

静かなバーとか、おとしまえの話は他でやってください。

当日の夕食会で 皆が

顔はよくっても、眼の悪い警察官で助かったな -----！

いくら眼が悪くても 飯盛さんを生殖能力ある壮年と見間違えてくれるか？ 疑問だ！。なやさいいスペインの警察官の精一杯の善意ある誤解を素直に受けておいて正解だった！。よ

★11: アウトランディング

7月8日は全員十分なフライトを堪能したようだ。後半、道路際にて休息していた村松にはつかみきれていないが、1つだけ聞いたことがある。

強風となってきたLD場に十分な高度をとりながらも最終的にアウトランディングした機体が1機。

この報告は東野会長にお願いしようかね！。

当日夕食に臨時収入60ユーロがあったため罰金支払いを免れ 不幸中の幸いらしい。

東野曰く

はい、こともあろうにそのアウトランディングは小生です。森技術部長のテイクオフ直後ほぼ真上で一直線とも言うべきスピードで旋回しながら駆け上がってゆくのを、その後を追って村松副会長が飛び去って行ってしまったから、やおらテイクオフ。順調に高度を上げながらテイクオフ前のサーマルに飛び乗り、高度 2,800、2,900、3,000、そして 3,000m突破、今回こそ絶対写真を撮らなければと揺られながら進行方向後方の Gallinero 山(2,727m)頂上、その背後につらなる 3,400m級のピレネー山脈に向けてシャッターを押した。あとはまっすぐカステホンの町後方の山に向けて一直線と思って進むが、よく揺れるしなかなか前進しないし、体が冷え始め硬くなり始めた。無線ではさかんに村松氏の着陸場所を特定するための交信が森、エミリー、宿のおかみさん、新木を巻き込んで飛び交っている。こういう時は頑張らない事にしてるのでしばらくぶらぶら飛行し

て、やがてランディング方向へ舵を取るが高度が有り余っている。そこでサブ六や翼端折。翼端を折ったまま気を抜いている間にシンク帯にはまって距離が足りない。サブランディング近くの牧草地帯にアウトランディング。急いでキャンピーを畳んでいるときに20mくらい先の道路をトラクターヘッドに乗ったおじさんがゆっくり通過、腰を折って深々と頭をさげてすみませんと表現したつもりだが解ってくれたらどうか。トラクターヘッドは悠然とそのまま通過して行ってしまった。キャンピー、ハーネスを牧草地から外へ出して道路際でパッキングし終わったころ、エミリー運転の車に回収してもう。
“ランディングはいつも強風だからショートするなよ”と初参加者に注意していた本人がやってしまった。しかし、『一人だけのクロカンをやってしまった人』のお陰でおとがめなしとなりました。
エミリーと運転を代わり、クロカンに出てしまった人の回収に向かいました。」

★12: **飛び乗り**

早く天国に、、空中に浮きたい気持ちはわかるのだが、長老のTOには毎回どきどきさせられる。やっと立ち上がったばかりの不安定なグライダーのブレークコードを椅子の肘掛代わり(とばかり)に引きながらすぐ座り込むため失速しそうになりながらTOする。空中に出てしまえば安全フライトに心がけているようなので安心してられるが、、ハーネスの上に剣山でも置こうか、ハーネスの座る部分とっちゃおうか、ブレークコード長くして肘掛代わりに使えなくしようか、などなど、提案される、が、、やはり“小山特訓”が一番だろう。

★13: **最高の贅沢**

昼前にカステホンを出発しバルセロナに向かわなければならない7月9日最終日。消化不良気味のナガチャン、フライとしたいと駄々をこねる。最終日に何かあると困ると思いながらもあきらめ顔で運転を承知する永井イントラ。
専用車、専用運転手にてただ1人900mのカステホンから2,350mのTOまで1時間強のドライブと30分のフライトを楽しんで “わがまま ナガチャン 1人でご満足！！”

★14: **老人性筋肉痛**

7月9日バルセロナ着後、かの有名な”サグラダファミリア”を見学する。
もうすでに2回目の永井イントラ颯爽と塔の螺旋階段を上り始めるが、途中足にひきつけを起こし歩行困難となる。本人は”みんなのために神経をすり減らし、やっと無事に帰国できると思って気が緩んだからだ”と言っていたが なに、単なる “歳” のせいよ。

★15: **密輸と重量**

出国時ひっかかったにもかかわらず懲りない森、相変わらず上手なパッキングで小さなグライダーバックにいろいろ詰め込んでいる。特にハム、ソーセージなど旨い肉類に魅せられお土産として購入した人は出来るだけ見つからないようグライダーの間にしまいこんだ。(村松は25kgのグライダーに生ハム2kgを詰めたため合計27kgとなっている)

どこまで受け取ってくれるのか？ 心配しながら見ていた森のバックは29kg。
何も言われない。全部OK だ。しかも荷物チェック(レントゲン)も無し。
だらしが無い空港だな！ と思いつつも ほっとし感謝する。

★16: **ナイフはいけません**

生まれてはじめての海外旅行で皆に冷やかされながら”どきどき”していた新木も帰路は落ち着き
払っている。が、、、”あ！！ やっちゃった”と声を上げる。 いつも持ち歩いている小型ナイフを身に
つけたままだ。 あわてているんなものにくるみ 手持ちバックの底に隠し 無事バルセロナ空港を
通過。 まだ次にパリ空港があるけど、 どうなったかな？

★17: **帰りたくない**

無事成田到着。密輸品の詰め込まれたグライダーが”つぎつぎと回転テーブルに現れる。
1個だけ何時までたっても出てこない。 そのうちに空港の係員が”これでお終いです！”
滑川のグライダーが”無い！！” どうして俺のだけ、、、と滑川、不満そうに係員と事務所に行く。
後日、

パリで発見され数日後手元に無事届いたが 原因は2つ。 まずグライダーケースに自分の名前、
住所が記入されていなかった。そしてバルセロナの空港係員が荷物タグをケースにベタリと貼ったた
め途中で剥がれ落ちてしまったらしい(普通タグは取っ手などにくるとまわしてタグの糊同士接着
するためめったに剥がれないが)。

本当の理由は

7月8日滑川の粘りフライトにある。何時までたってもランディングしないご主人の気持ちを察した
グライダーが日本に帰るのを嫌がりパリに留まってしまったらしい。

★18: **リース電話**

意気軒昂なる遠征前の時点で、各自各々電話を借りてXCに出よう と計画したがあまりに高額
のため2個だけ借りてみようということになった。

結果は、使用時間5秒、つまり試しにベルを鳴らしてみただけで 使わず。

リース料はXCに出る可能性のあるメンバーで分担となり ¥2,450/1名。

滑川も“支払いのメンバー”に入れてあげたので 何時までも文句を言っていたな――。

こうして全員無事怪我もなく満足して帰国しました。

冒頭にも述べたように筆者の知っている範囲の”どじ集”ですからまだまだほじくればいろいろ出てくるはず。
とりあえず、ここ 8月12日で最終編集とします。

もしあれば 以降 第2、第3の ”どじ集” 発表を期待しましょう。